

研究会会員の皆様、こんにちは。

桜もまたたくまに過ぎて行き、緑が濃くなったと思ったらもうすぐ蛍の季節ですね。

最近道端のたんぽぽやそんな雑草の花がかわいいです。

では、会報、いってみましょう。

皆さんも、何か載せたいこと(告知、連絡、紹介など)、そしてご意見・ご感想などありましたら、ご連絡下さいね。

- 目次
1. 前回例会報告
 2. 伝言板
 3. 次回例会案内(次回は6/14。今回は鹿児島からゲストに来ていただきます!)
 4. 編集後記

1. 第11回例会報告

- 日時: 2015年3月29日(日) 13:30~16:30頃 ※受付13:15~
- 話題提供者: 北田 朋子
- 内容: 「音楽(療法)の会を進めていく人の持ち味について考える」
- 場所: 京都市東山いきいき市民活動センター
- 参加人数: 7名
- 会計報告: 60円(参加費1人分) × 7名 = 420円

経費・・・部屋代400円 残20円

《北田より》

私の修士論文「施設入居高齢者のためのグループ『音楽とおしゃべりの会』の探索的研究～パーソンセンタードアプローチの視点から」をコンパクトにして、どこかで発表したいなあと思っています。でも、「これは音楽療法関係者の人はまあ大体はやるようなことで、大それたなことではないよな…」とすぐ考えて、筆が進まなくなります。でも、やっぱりどこか「北田っぽい」はずではないか?とも思います。そこで、その修士論文からエピソードをいくつかピックアップして皆さんにお伝えし、それに対して、「私ならこう考えてこうやるかな」とか「何でこうしたの?」とか「この時何を考えてたの?」とか質問したりしてもらったりする…という会にしたいと思ってやってみました。

《参加者の感想》

北田さんの修士論文から抜粋された、今回の資料である有料老人ホームグループ「音楽とおしゃべりの会」でのエピソードから、利用者(職員の方も)と北田さんの心と動きの変化を学ばせて頂きました。なかでも、特にプログラムを決めず、伴奏楽器は使用しない『丸腰』の気分での北田さんの取り組みに、妙に斬新さを感じました。また、今回の例会では参加者ひとり一人に、資料に対しての意見を自由に述べさせるという姿勢をとられ、北田さんの器の大きさを感じています。論文の一部をまとめて提出されるようですが、現場でも今回の例会でも参加者から『学ぶ』という、その姿勢がきっと『丁寧』な論文に繋がることでしょう。(T.H)

北田さん、発表お疲れさまでした。発表の中で、北田さんが「すごい」と思った体験でも、「相手にとってよかつたのかわからない…」(特に認知症などで、表情や感情が読みにくい場合)とおっしゃっていましたが、確かに、相手のことはわかり尽くせるものではないですよ。でも、それでもやはり、北田さんがHさんの歌声を「すごい」と思ったということは、Hさんは、少なくともその場で「すごい」と思われる存在になっていた、ということで…。それって、やっぱり音楽療法としてとっても大事なことなんだろうな、と思いました。

少なめ的人数でしたが、「哲学カフェ」みたいに(←行ったことないですが、笑)、じっくり自由に意見を交わせる時間で、とてもおもしろかったです。(Y.G)

《発表を終えて》

何(十?)年もひいてない風邪を、思い切りひいている中での発表で、色々とお聞き苦しい所があったかと思いますが、色んなご意見や質問をいただき、ありがたい会でした。

自分が何気なく書いた言葉が、指摘を受け考えてみると、そこに自分のポイントがあることがわかったり、質問に対して、自分では「うーん」と考え込んでしまったことを、参加者の方が「(レジメの中の)ここに書いてることが答えでは?」と言ってくれて、「あ、そうだ」となったり、色々意外な新しい発見がありました。また、「北田というファシリテーターの持ち味はどんなだろう?」というところから始めた内容だったのが、「これは、参加者の持ち味をどう生かすかっていうエピソードなのでは?」と言われ、それもなるほどーでした。こんな機会はほんと必要ですね。参加者の方には、一生懸命考えていただき、本当にありがとうございました。

※学会発表について

例会で話してからまた色々四苦八苦し、9月に松山である日本人間性心理学会で発表することにしました。(会員でなくても参加出来るので、興味をお持ちの方は参加してみられるのもいいかなと思います。音楽に關しての発表はほぼないので、この研究会に居る方とは考え方などが似ているものもありそうで、ちょっとおもしろいのではと思いますが…。)「学会発表する」と言う「えらーい」とか「すごーい」とか言われることも多いです(そういう私も思っていました)。で、発表のことを考えながらも「自分のやったことは、学会で発表するほどでもないし…」と思って大学院でそんな話をしていたところ、「臨床家の義務だと思っよー」という考えを聞きました。人と関わる仕事をしていると、「これってその人にとってはどうだったのだろう…」と思うことはよくあると思います。学会で発表するのは、そういうことや、ある程度長いプロセスを丁寧に考える機会の一つとしても捉えられるのではないかと思います。(まあ、年度末とかに一年間のまとめをされておられる方や、京都音楽院での水上恵美先生の「事例研究ゼミ」とかもそういう機会になるのですが。)そんな、自分のやったことをていねいに考えて、他の文化でやっている人に質問やコメントをしてもらおうことで、自分の考えを進める元にしったり出来ればいいかなと思っています。

2.伝言板

京都音楽院・京都国際音楽療法センターの講座案内です。

【エピソード記述で音楽療法の心を描く(全4回)】

6月14日・7月5日・8月9日・9月6日 ※各回とも日曜 10:15~11:45

講師 山本知香先生 受講料 各3,240円(税込)

◇心の動きに注目した振り返りの方法について学びます。クライアントだけでなく、セラピスト側にも目を向けていきます。「私のやっているこれって音楽療法かな?」と悩んだり「大事なことだと思うのに、人に伝えるのが難しい」と困っている方に。

※まずは初回だけでも大歓迎です。書くのは苦手という方でも分かりやすくお手伝いします。

詳しくはホームページ <http://www.jeugia.co.jp/kicmt/index.html>

お申込みはメール《ongakuin@jeugia.co.jp》お電話《075-211-6323》へ

3.次回例会

京都音楽療法研究会 第12回例会のお知らせ

さて、次回の例会のお知らせです。今回は、鹿児島から白井祐浩さんが来てくれて、北田とブエノスアイレスで発表した内容の方法『セラピスト・センタード・トレーニング』を音楽療法関係者の皆さんとやってみようと思います。

日 時：2015年6月14日（日） 13:30～16:30 ※受付13:15～

内 容： 「～セラピスト・センタード・トレーニング」

ファシリテーター： 白井 祐浩さん(志学館大学講師)

北田 朋子

《白井さんより》

京都音楽療法研究会のみなさま、初めまして。6月に例会を担当させていただきます、白井祐浩（しらいまさひろ）と申します。この度、例会を行うに当たって、北田さんから「何かお誘いのメッセージを…」と言われたので、ちょっとばかり例会の予告をさせていただきたいと思います。

今回の例会は、セラピスト・センタード・トレーニング（略してTCT）というものを行う予定です。「セラピスト・センタード・トレーニング？何それ？」という方がほとんどだと思いますので、ちょっとばかり説明を…。

講習会などで新しい知識や技術を学んだけれど、なかなかうまく活用できないという経験はありませんか？あるいは、先生や先輩からアドバイスをもらい、「なるほど。でも自分には出来ないな」と思ったことはありませんか？セラピストのトレーニングというと、新しい知識や技法を学んだり、ケースへの適切な対応の仕方を学んだりということをイメージする人が多いのではないかと思います。もちろんそれは大事なことでありますが、それだけでいいのでしょうか？

セラピーという仕事は、単に知識や技法に従うだけではうまくいきません。あるセラピストにとってうまくいくやり方が別のセラピストもうまくできるとは限らないように、セラピストという「人」の要因を抜きにして、セラピーを考えることはできないのではないのでしょうか。言うなれば、全てのセラピストにとって「正しい臨床」は存在せず、これまでの先人の知識や技術を吸収しながらも、そこから自分らしいやり方、「私の臨床」を作り上げていくことが大事ではないかと思います。TCTとは、一言でいえば、セラピストが主役となり（他のメンバーはサポーターとしてセラピストのお手伝いをします）自分の考えや体験を整理したり再確認することで、「私の臨床」を作り上げていくためのトレーニングです。

和気藹々とした雰囲気の中、自分の考えや体験を振り返りたい方、自分のテーマについて他の人の力を借りて体験を振り返りたい方など、奮ってご参加いただければと思います。

《北田より》

「自分の」音楽療法ってどんなんだろう…とか、どうしたらそれがはっきりしてくるかなあ…とか、理論とか教えられたこととは変わってきてるけど、どんなんだろう…とか思ったりする方、考えたい方、特にオススメです。私は、とにかく、「音楽療法士が自分の持ち味を自覚して発揮するといいセラピーになる」と思っています。別に、ピアノが上手くなくても。凸凹の凸で勝負したらいいんやん!って思っています。そんなことをずっと思っていて、博多で白井さんと出会いました。私の悩みをこの「セラピスト・センタード・トレーニング」のワークでやってもらったのですが、その時の体験は結構大きく、今だにそのメンバーに支えてもらった「これを大事にしたいんだ」という気づきは、自分の大事な土台です。そんなところから、この方法を音楽療法関係者の人たちとやってみたいなあ～と思いました。

参加者で実践上の悩みやこんなふうになりたいという思いを持ち寄ってやっていきます。準備は特に何もありませんので実践している方もしていない方も音楽療法への思いだけをお持ちください(笑)。

申 込：6/10(水)までにメール(研究会宛。上記参照。)or ハガキ(畑陽子様宛)にて。

《大事なこと》 お申込なしに来られた方には、資料等の用意が出来ません。そんな場合は、資料原本を、受付でお貸ししますのご自分でコピーに行ってくださいね♪
逆に申し込んでいて来られなくなった方には、資料の用意をしております。
なので買い取りをお願いしますね♪

参加費：場所代(400円)を、参加者で割ります。別途、資料コピー代がかかることがありますので、小銭をご用意してご参加くださると助かります。

場 所：東山いきいき市民活動センター1F 会議室5

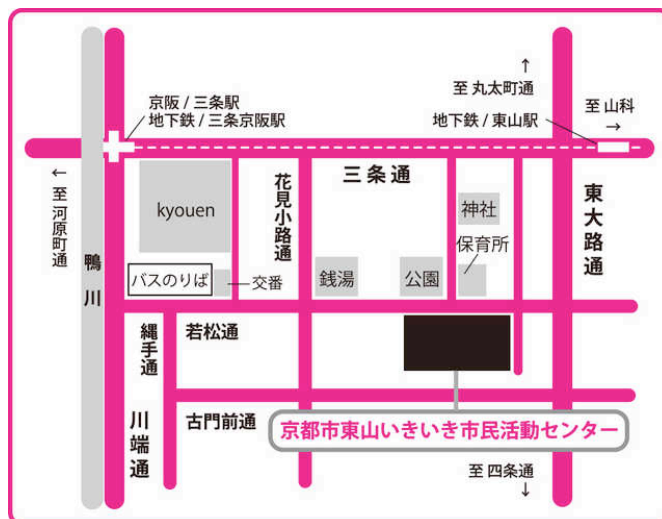
東山いきいき市民活動センター 〒605-0018 京都市東山区花見小路通古門前上る巽町450番地
(花見小路通古門前上る東入る南側。保育所と公園の向かい側にあります。)

■最寄駅・バス停■各駅、停留所より徒歩5～7分です。

【京都市営地下鉄東西線】三条京阪・東山 【京阪本線】三条

【京都市バス】5, 12, 46, 100, 201, 202, 203, 206 系統 … 東山三条

5, 10, 11, 12, 59 系統 … 三条京阪前



4.編集後記～下関だより～